

慶應義塾大学 総合政策学部・環境情報学部 (SFC)
2016 年度一般入学試験「情報」の各問題について～入学者アンケート

2016 年 11 月

キミのミライ発見

氏名	松島千晃	出身高校名	山崎学園富士見中学高等学校
受験学部	環境情報学部、総合政策学部	入学学部	環境情報学部

1. 総合政策学部の入試について

(1) 総合政策学部の入試問題の大問 4 つごとに

① 総合政策-I

- ・ 知識を問う問題で、常識的なことに関する問いから、かなり細かい問いまで様々な分野から出題されていました。
- ・ 自分の知っていることから確実に消していく方式で解けばそこまで難しくはなかったと思います。
- ・ かなり細かい引っ掛け問題のようなものも含まれていたが、覚えている or 覚えていないの 2 択なのでわからなければ深く考え込んだりせずテンポよく解いていくのが大事だと思いました。
- ・ 教科書などの法令の内容などを丁寧に一度さらっておくと良かったと思います。

② 総合政策-II

- ・ 情報の常識的な計算問題と数学的思考を必要とする問題の大問でした。
- ・ (ア) (ウ) に関しては情報受験では、確実に常識的なことだと思います。
- ・ (イ) に関しては、私があまり数学が得意でなかったこともありますが、規則性法則に気がつくのが遅く、この問題には多く時間をかけてしまいました。
- ・ 解けない問題に出くわした時は、その問題に固執して時間を割いても解けないし、焦るしで非常に良くないので、一旦飛ばして、最後まで解いて落ち着いて時間があればもう一度戻ってきて解くようにしたほうがよかったと思います。
- ・ (ア) (ウ) に関しては情報の科学の教科書か情報関係基礎の過去問などをやっておけば大丈夫だと思います。

③ 総合政策-III

- ・ 埋めていく場所が多いため、混乱せず一つ一つ丁寧に考えて埋めていけばそこまで難しい問題だったと思います。
- ・ 似たような選択肢が多いので、わからなくなったら一度埋めたところをたどって矛盾が生じていないかを確認する余裕を持つことが大事です。

・これも同じく情報の教科書や情報関係基礎の過去問に似たような問題があったと思うので、不安であればそういった類似問題をいくつか解いておけると安心できると思います。

④総合政策-IV

- ・(ア) は進行図を描けば簡単だと思います。
- ・(イ) はプログラミングの基礎的な考え方を言葉で埋めていく方式で、私はあまりプログラミングが得意ではなかったので最後まできちんと解くことができませんでした。
- ・ですから、プログラミングの経験なく情報受験をする人はプログラミングの言語を新しく学ぶのではなく、プログラミングの仕組み(どのような流れが執り行われているのか)を学ぶ方がこの受験に限っては有効で、かつ、進学してからも初めてプログラミングに触れる人よりは理解しやすくなるので良いかと思います。

(2)総合政策学部の入試問題の全体を振り返って

①難しかった部分

II (イ) と IV (イ)

今まで勉強してきたことと形式が違かったため戸惑って時間を取ってしまった問題でした。基盤となる知識は持っていたと思っているので焦らず解けばよかったのだと思います。精神論になってしまいましたが、わからない問題に出くわしても焦らないことが大事だと思います。

②易しかった部分

I、II の (ア) (ウ)

それぞれ引っ掛けや多少難しかったところもありましたが、比較的自分の中では解けていた自信のある問題でした。

③どのくらいできたか

130/200 と思っていますが、本当にこれぐらいだったかは定かではありません。

④全体としての試験勉強対策として

・使用した教材

学校の「情報の科学」「情報と社会」の教科書と問題集

学校の先生からいただいたプリント類

センターの過去問(第1・2・3問)

・どのように学んだか

「情報と社会」の教科書はひたすら単語や語句を覚えることに力を入れていました。問題集は正誤問題や選び取る問題が予想問題等に出ていたなので、本試に活かせると思い重点的にやりました。

「情報の科学」の教科書はアルゴリズムや暗号化の手順などの基礎を学ぶ確認用に使っていました。問題集の方はあまりやっていませんでした。語句のところだけすこしやっていた感じです。

センターの過去問は、第1問は語句と計算問題なのでさくさく解いていました。第2問がちょっと数学的な問題だった年もあったので、いろいろな問題に触れるのにはちょうど良かったです。第3問はアルゴリズムの問題でしたが、最後の方まで私は第3問の間3までちゃんと解く事は出来ませんでした。問2までは確実に解けるように心がけていました。実際の試験ではプログラミング言語ではなく語句を埋めてく形式のもので、難易度もおそらく非常に難しかったわけではなかったんだろうなと思いました。

- ・来年情報入試が難化するなら、やっておいた方が良いと思われる分野や範囲

今年の総合政策の問題は対策していた範囲でない問題が出て困ったので、数学的思考を必要とする思考問題（過去の数学の試験で出ていたような問題）は出てきてもパニックにならないように、ちょっとはやっておいたほうが良いと思いました。文章を読めば解けるので落ち着いて解くのが大事だったなと思います。

またIPアドレス、ネットワーク、法律関係の細かいところ（例えば特許の、特許と実用新案の違いなど）、ランサムウェアやトロイの木馬などの語句は確認不足だったので、そういった用語集、教科書を違いや内容に気をつけながら読んでおくべきだったと思います。（字面ばかり追っていて、実際の中身を覚えられていませんでした）

- ・やっておけば良かったと思う個人的な範囲、問題
法律関係、細かい差違の確認

2. 環境情報学部の入試について

(1) 環境情報学部の入試問題の大問4つごとに

①環境情報-I

- ・総合政策と同じく、法律やウイルスなどに関する4択問題です。
- ・解き方等も総合政策と変わらないかなと思います。

②環境情報-II

- ・論理式、二進法など高校の授業でも多少扱うような情報の基礎的な問題の多い大問でした。
- ・どの問題もそこまで難しくはなく、論理式や二進法などについてしっかりと理解できていれば大丈夫だと思います。「情報の科学」の教科書、情報関係基礎の過去問などで対応できると思います。

③環境情報-III

- ・IP アドレスに関して広く多少細かく聞かれる問題でした。
- ・私はIP アドレスに関してきちんと覚えきれていないまま受験してしまったため、迷う解答欄も多かったですが、IP アドレスやインターネット通信に関する項目をきちんと学んでおけば十分対策しておける範囲だと思います。

④環境情報-IV

- ・総合政策と同じくプログラミングの問題でした。(ア)に関しては全くプログラミングの計算ではないのできっちり正解することが大事だと思います。
- ・それ以外に関しては一つ一つ流れを考えて埋めていくしかないと思うので、対策は総合政策と同じになります。

(2)環境情報学部の入試問題の全体を振り返って

①難しかった部分

IV のプログラミングはやはり苦手としており難しかったです。

②易しかった部分

I と II に関しては比較的に対策していた通りに問題が出たので、戸惑わず一つ一つ着実に解いていくことができました。

③どのくらいできたか

160/200 ぐらいだと思います。総合政策よりできたと思います。だいたい今回のレベルだと 8 割ぐらいが合格のラインになってくるのかなと思います。SFC からの情報開示でも合格者平均が 8 割前後でした。

④全体としての試験勉強対策としては

総合政策と同じ対策しかしていないため、総合政策の方を参考にしてください。

3. その他

①なぜ受験したか

元々は宇宙物理学を大学でやりたいと思っていたのですが、8月ごろにどうしてもメディアアートを大学で学びたいと思い、筑波大学の情報メディア創成学類を第一志望に切り替え、それに合わせてメディアアートを検索して出てくる大学がSFCしかなく、これは受けるしかないなと思い、11月ごろに本格的に受験することを決めました。

②先生や周りの人は、どう言われたのか

担任の先生からは8月に志望分野とそれに伴って受験科目もいくつか変更していたので、さすがにこれ以上増やしたりするのはやめたほうが良いと止められました。また親はやりたいたいならやれば良いがという感じで止めはしないが、流石に無理だろうと思われていました。

③どう勉強したのか

高校の情報の先生にSFCの情報入試を受けたい旨を11月ごろに話に行ったところ、そこから朝の時間とセンター前の時間を使って補講を行ってくれました。過去問もなく、参考問題と教科書などしか当てになるものはありませんでしたが、手作りのプリントを作っていたいたり、自分たちなりに教科書の問題、センター試験の過去問を解いたりするなどして対策としました。

④高校の「情報」の時間ではどんなことを学んだか

簡単なエクセルの使い方、ビジュアルプログラミング言語のスクラッチ、wordでのポスター制作などを行いました。